

第1章 環境基本計画策定の基本的な考え方

Section 1 . 計画策定の背景

私たちのふるさと岡谷市は、諏訪湖の西岸に面し、西北には塩嶺王城県立公園があり、また遠くには富士山、八ヶ岳連峰を望む、湖と四季を彩る山々に囲まれた自然環境に恵まれたまちです。私たちは、この豊かな自然環境の下で、地域の特性を活かした産業や文化を育んできました。

しかし、産業の発展や都市化の進展は、諏訪湖の水質汚濁をはじめ住工混在地域における騒音、悪臭等の産業型公害、日常生活に起因する都市・生活型公害をもたらしています。また、森林や農地の減少などによる、自然環境の保全に関わる様々な問題も招いています。

さらに、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動は、廃棄物の量の増大や質の多様化をもたらすとともに、身近な地域の環境だけでなく、すべての生物の生存基盤である地球環境にまで影響を及ぼしています。加えて近年、生物の基本的な生存に関わる化学物質汚染問題も顕在化してきています。

一方、価値観の多様化などにより、市民ニーズも「物の豊かさ」「便利さ」を求めるだけでなく、「心の豊かさ」を求める傾向にあり、自然とのふれあいや快適な環境への関心が高まっています。

また、リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の3Rによる循環型社会に対応するため、近年、容器包装・家電・建設・食品・自動車リサイクル法等、「循環型社会形成推進基本法」が施行されてきています。

このような状況の中で、環境問題により的確に対応するため、環境の保全に関する基本理念や基本方針等を明らかにした「岡谷市環境基本条例」を平成10年12月に制定しています。

岡谷市環境基本条例の基本理念

健全で恵み豊かな環境の恩恵の享受と将来世代への継承
自然と人との共生
環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築
地球環境保全の取り組み

Section 2 . 計画策定の目的

岡谷市環境基本計画は、「岡谷市環境基本条例」に定める基本理念の実現に向け、条例第7条の規定により、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定したものです。

本計画では、長期的な視点に立った望ましい環境像を定め、その実現に向けて基本目標と、より具体的な個別目標を明らかにするとともに、市が行う環境の保全に関する基本的な施策を体系的に示します。あわせて、市民と事業者に自主的に取り組んでいただく、環境への配慮行動の指針を盛り込み、基本目標ごとの指標を設けました。

また、本計画は、国や県の環境施策との整合を図りつつ、平成16年度からの「第3次岡谷市総合計画後期基本計画」に定められた将来都市像の実現に向け、環境面から取り組んでいくものであり、環境施策の策定や推進にあたっての指針となるものです。

Section 3 . 計画の期間

環境問題の解決に向けては、長期的視野に立った環境施策の展開や市民及び事業者の継続した環境への配慮行動が必要となります。そのため、望ましい環境像やこれを実現するための基本目標は、21世紀を展望しつつ本市の環境特性を考慮して、普遍的な目標として設定します。

しかし、環境問題は複雑であり、新たな課題の出現や市民の環境に対する意識の変化等も予測されること、また、「第3次岡谷市総合計画後期基本計画」が5ヵ年計画であることを踏まえ、個別目標や基本施策等については、平成17年度を含め概ね5年後を見据えて計画します。

Section 4 . 計画が対象とする環境施策の範囲

本計画が対象とする環境施策の範囲は、公害の防止や自然環境の保全、快適な環境の確保など概ね次の項目の範囲を対象とします。

- 公害の防止.....大気汚染や水質汚濁、騒音などが人の健康や生活環境に及ぼす被害の防止に関すること
- 自然環境の保全.....自然とのふれあいや、恵まれた自然環境の適切な保全に関すること
- 廃棄物の3Rの推進.....リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）やリサイクル（再生利用）の推進、資源の有効利用に関すること
- 快適な環境の確保.....緑化の推進、美しい景観や地域特性を活かした快適な環境の確保に関すること
- 地球環境の保全.....新エネルギーの利用など、地球温暖化の防止やオゾン層の保護など地球環境の保全に関すること

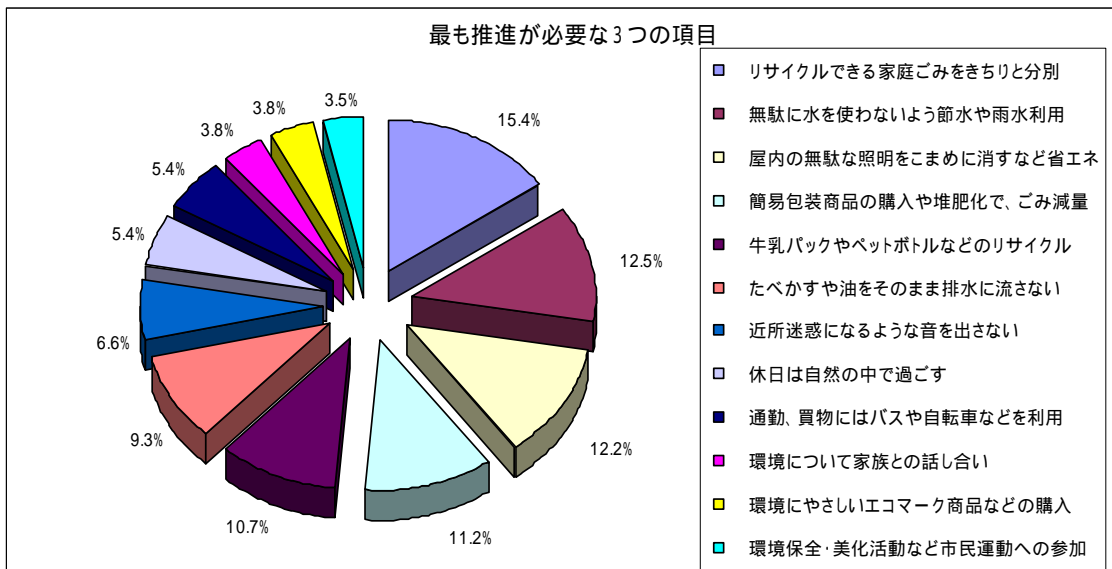


図 - 1

岡谷市では平成16年度に市民500人を対象に、環境に関するアンケート調査（以後、市民アンケート調査）を実施しました。市民アンケート調査において上図の12項目の中から、「あなたが最も推進が必要と思う3つの項目番号をご記入ください」という設問に対して、上位から1番目に、「リサイクルできる家庭ごみをきちりと分別」、2番目に、「無駄に水を使わないよう節水や雨水利用」、3番目に、「屋内の無駄な照明をこまめに消すなど省エネ」という結果となりました。